

# 序

日本はこれまで腫瘍学・免疫学の分野において、世界のトップクラスのさまざまな貢献をしてきた。また、多くの著名な研究者を育成し、輩出してきた。しかしながら、現在は人口減少、景気の低迷に伴う研究費の削減、若手研究者の留学者数の減少など、悲観的な情報が続いている。

さて世界的にみるとがん患者は増える一方である。ここ数年で免疫チェックポイント阻害剤はさまざまながん、ステージ、ラインでの使用がすすみ、文字通りがん治療の屋台骨となりつつある。その一方で、がん免疫の研究分野での大きなブレイクスルーは、まだまだ必要である。しかしがん免疫は、免疫学・腫瘍学という2つの領域にまたがるため、体系的な全体像の理解が難しいといわれていた。そこで必要な知識を体系的に整理した本書を企画した。これによりホットな分野であるがん免疫の世界に若手研究者が興味をもち、参加してくださることを心から希望する。

本書の執筆には、すでに著名な先生方から、比較的若手の研究者までご参加いただいているが、いずれも担当分野での顕著な研究実績がある方や、とても勢いのある研究や魅力的な研究をされている方である。私自身ははじめからがん免疫を専門にしようとしていたわけではなかったが、がん免疫の分野を多数の素晴らしい先輩の先生方に教えていただき、結果としてこの分野をとても好きになった。そのときに読んだ本のワクワク感を、次世代の方感じてほしいという思いをこの本に込めた。たいへんお忙しいなか執筆をお引き受けいただいた諸先生方、またこの本を編集するにあたり、当初からご指導、ご支援をいただき、さまざまな相談にのっていただいた羊土社蜂須賀修司氏、橋本紫光氏はじめ関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

若手研究者には、ぜひ本書を自分の最も興味のある項目から読み、周りのがん免疫に詳しい人に質問しながらくり返し読んで、がん免疫へ興味をもって研究に積極的に参加していただきたい。また、本書がカバーできていない分野もまだまだたくさんある。奥深いがん免疫の世界を、読者の皆さんとともに広げていければ幸いである。

2022年1月

吉村 清